

人間社会学部における教育研究上の目的と三つの方針

1. 人間社会学部の研究教育上の目的

人間社会学部は、教養並びに専門科目に関する教育・研究を通して、幅広い視野を持ち専門分野を深く探究し、知的・道徳的に優れた能力を兼ね備えた人格を育成し、国際社会や情報化社会の発展に貢献する人材を養成することを目的とする。

2. 人間社会学部の3つの方針

1) アドミッション・ポリシー（入学者の受け入れ方針）

経営、情報、文化、メディアコンテンツ、心理学などの分野に強い興味や関心を持ち、自ら積極的に学んだ知識、技能を用いて社会の発展に貢献する希望と意欲をもつ学生を受け入れる。

2) カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施の方針）

経営、情報、文化、メディアコンテンツ、心理学などの分野におけるスペシャリストとして活躍でき、社会からの要求（地域貢献・社会実装）に応えることのできる人材を育成するために、情報社会学・心理学分野の専門科目と教養科目とをバランス良く配置して、講義、実験、実習、演習などの教育方法により、学位取得のために身に付けるべき専門的及び基礎的な知識・能力・技術などを教授し、授業科目ごとの学習到達目標を明確にして厳格な成績評価を行うようなカリキュラムを編成する。

3) ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

将来、それぞれの専門分野において活躍する上で基礎となる知識を修得し、さらに問題解決力、プレゼンテーション力、探究心、倫理観など社会で要求される力を身に付けた学生に対し、学士の学位を授与する。

3. 情報社会学科の教育研究上の目的

情報社会学科は、高度に情報化した知識基盤社会に対応できる情報リテラシーを身に付けるとともに、学際的な学びを通して社会の変化に対応できる幅広い知識と教養を習得し、現代社会における諸問題を様々な角度から分析・解決できる、個性豊かな人材を育成することを目的とする。

4. 情報社会学科の3つの方針

1) アドミッション・ポリシー（入学者の受け入れ方針）

情報社会学科は、幅広い教養と知識基盤社会で必要とされる知識・技能を身につけ、それらを主体的に活用して社会に貢献できる人材を育成することを目指しています。これを実現するために、社会の様々な分野において、自ら課題を発見し解決することを通じて変化の激しい現代社会に対応し、主体的に活動してゆこうとする人を求めています。具体的には以下のような意欲を持った入学者を受け入れます。

- 一 経営全般にわたる専門知識を修得し、現代社会の様々な課題に立ち向かっていきたい人
- 二 情報技術に関する専門的な知識、技能を活かした表現活動をしたい人
- 三 情報化社会に求められる教養、知識を身につけ、社会で活用したいと考えている人

また、すべての入学者について、高等学校において国語・英語・数学等の教科の基礎学力をしっかりと身につけておくことを求めます。

こうした入学者を受け入れるため、一般選抜の他、学校推薦型選抜、総合型選抜等の多様な入学者選抜方法によってその適性を確認します。一般選抜では主に個別学力検査または大学入学共通テストの結果に基づいて評価を行います。一部の試験区分では調査書も評価に活用します。学校推薦型選抜並びに総合型選抜では口頭試問・面接・調査書・志望理由書等により総合的に評価を行います。

2) カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施の方針）

情報社会学科では、経営全般にわたる知識や情報技術を総合的に学ぶIT経営専攻と、デジタル技術に基づく専門知識や技能、背景となる文化や思想を総合的に学ぶメディアデザイン専攻の2つの専

攻を設けています。情報社会学科のカリキュラムは、情報化社会に必要な専門知識を修得し、多様な領域に目を向けることのできる能力を育成するために、さまざまな分野の専門・教養科目、卒業後の進路選択を支援するキャリア・デザイン科目を設けています。

また、学生一人ひとりの進路選択にあわせて、専門的な知識・技術を効果的かつ柔軟に学べるように編成されています。1年次には大学での「学び」への移行を円滑にするため、少人数クラスの演習科目を開講し、大学における学び方を身につけます。2年次には社会において不可欠なコミュニケーション能力、問題発見・解決能力、情報活用力、社会人基礎力を身につけることを目指します。

3、4年次の演習においては、指導教員による個別指導を通じて専門的な知識や技術を深めます。専攻制はフレキシブルに運営されており、所属する専攻以外の科目も自由に履修することができます。

3) ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

次の要件を満たしていることを卒業研究により確認したうえで、所定の単位を取得した学生に対して、学士（教養学）の学位を授与します。

- 一 各専攻分野についての専門知識、技能を実社会で活用できる能力を有している。
- 二 多様な情報を収集、分析し、自ら判断、表現する能力を有している。
- 三 情報化社会に必要なとされる高いコミュニケーション能力と問題発見・解決能力を有している。

5. 心理学の教育研究上の目的

心理学は、人間の心を科学的に解明する教育・研究を通して、人間の心を深く理解し、豊かな個性と教養を身に付けた、社会に貢献する人材を養成することを目的とする。

6. 心理学の3つの方針

1) アドミッション・ポリシー（入学者の受け入れ方針）

心理学では、教育研究上の目的を実現するために、以下のような人材を広く求めています。

ビジネス心理専攻では、心理学の専門知識とともにビジネスに関する知識も身につけたい人や、自分や他者の心を客観的に理解する力を仕事や人間関係の中で応用し、他者と協調しながら社会で活躍できるようになりたい人を求めています。

臨床心理専攻では、心理学の基礎的な知識を着実に身につけながら臨床心理学を学びたい人や、人の役に立ちたいという思いを実現するために、公認心理師などの資格取得を考へて、意欲的に専門知識を学び実習に参加しようという人を求めています。

両専攻とも、入学者には、高等学校における教育課程を広く履修して基礎的な学力を身につけていること、また基本的な思考力や表現力を有していることを求めます。

このような入学者を受け入れるため、一般選抜の他、大学入学共通テスト、学校推薦型選抜、総合型選抜等の多様な選抜方法によってその適性を確認します。一般選抜と大学入学共通テストでは学力試験により、学校推薦型選抜と総合型選抜では、面接、書類審査、口頭試問、課題審査等により評価を行います。

2) カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施の方針）

<教育方針>

心理学では、ビジネス心理専攻と臨床心理専攻の両専攻において、それぞれ体系的で段階的なカリキュラムが編成されている。臨床心理専攻においては、公認心理師となるために必要な科目が配置されている。2つの専攻の4年間を通じての学習・教育目標と授業科目の配置を概観するために、カリキュラムツリーが作成・公開されている。

<教育内容・方法>

教養科目には、社会人に必要とされる教養と技能を身につける科目が配置されている。オーラル中心の習熟度別少人数クラス制である英語科目をはじめ、情報系科目やキャリア・デザイン科目、自然科学・人文社会科学等の多彩な講義科目が配置されている。

専門科目には、心理学の専門知識を広く深く学ぶための演習科目と講義科目が、入門的な科目からより専門的・応用的な科目へと段階的に年次配当されている。専門科目には、データサイエンスに関わる科目や、社会科学に関わる情報社会専門科目も含まれている。

1年次には、講義科目である「心理学概論」と「心理学統計法」、少人数クラスで大学における学習の技法を学ぶ演習科目である「基礎演習」を中心に、心理学を学ぶために必要な基礎知識を身につける。

2年次から4年次にかけて、ビジネス心理専攻には、エビデンスに基づく判断と社会における応用の力を身につける専門科目、臨床心理専攻には、心の問題のプロフェッショナルになるための専門科目が配置されている。

2年次には、班別の演習科目である「心理学実験」と「心理演習」において、各種の心理テストや心理学実験を体験学習し、データの採取や分析、学術的レポートの書き方といった、心理学研究を進めるために必要な技能を実践的に学ぶ。

3年次には、全員が少人数ゼミに所属し、演習科目である「一般実験演習」において、指導教員の指導の下に、専門的な心理学研究の技法を深く実践的に学ぶ。臨床心理専攻のカリキュラムには、医療・福祉施設等における学外実習科目である「心理実習」が配置されている。

4年次には、演習科目である「総合研究演習」において、未解決の問題を自ら見出して探求するアクティブラーニングを実践し、卒業研究を行う。

<教育評価>

各授業科目の学修到達目標および達成度評価の方法と基準は明確に策定して提示する。学生の各授業科目の評価や単位修得状況、GPA等を調査して、教育課程全体における学修到達状況を明示する。

卒業研究報告書については、その水準と内容を学科教員全体で評価することで評価の公平性を担保するとともに、ディプロマ・ポリシーに示した学位授与の要件が満たされたかどうかを判断する。

3) ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

心理学科のビジネス心理専攻と臨床心理専攻では、現代社会において必要な一般的教養、専門的知識・技能を修得し、建学の精神である使命感・人生観・連帯感を有した以下の要件を満たす学生に対して、学士（心理学）の学位を授与する。要件の確認は、「卒業要件」に示された単位の修得により行う。

<知識・理解>

- 心理学に関する専門知識と基本的技能を身につけ、その応用力を有する。

<汎用性技能>

- 社会人に必要とされる一般的教養と技能を有する。
- 他者と協働して問題解決にあたることのできる高いコミュニケーション能力を有する。
- 社会生活における課題を科学的にとらえて思考し、対応する力を有する。
- 社会生活における「心の問題」に対処できる実践能力を有する。

<態度・志向性>

- 人の心を深く理解し、自らを律して行動し、他者と協調することができる。
- 人間の心や社会の問題に対し、エビデンスに基づき判断し、対処する態度を有する。
- 心理学の知識と技術を用いてビジネスや社会生活の課題解決に意欲的に臨むことができる。
- 心理学の知識と技術を用いて人や社会に貢献する意欲を有する。
- 「心の問題」の専門家になるための倫理観や責任感を有する。

<総合的な学習経験と創造的思考力>

- 心理学科で学んだ専門知識や教養を活用し、社会生活の問題や「心の問題」に対応するための創造的な思考および実践的能力を有する。